

# 大日本帝國憲法義解

恭テ按スルニ我カ國君民ノ分義ハ既ニ肇造ノ時ニ定マル中世屢變亂ヲ經政綱其ノ統一ヲ弛ヘシニ大命維新皇運隆興シ聖詔ヲ渙發シテ立憲ノ洪猷ヲ宣ヘタマヒ上元首ノ大權ヲ統ヘ下股肱ノ力ヲ展ヘ大臣ノ輔弼ト議會ノ翼贊トニ依リ機關各其ノ所ヲ得テ而シテ臣民ノ權利及義務ヲ明ニシ益其ノ幸福ヲ進ムルコトヲ期セムトス此レ皆祖宗ノ遺業ニ依リ其ノ源ヲ疏シテ其ノ流ヲ通スル者ナリ

## 第一章 天皇

恭テ按スルニ天皇ノ寶祚ハ之ヲ祖宗ニ承ケ之ヲ子孫ニ傳フ國家統治權ノ存スル所ナリ而シテ憲法ニ殊ニ大權ヲ掲ケテ之ヲ條章

ニ明記スルハ憲法ニ依テ新設ノ義ヲ表スルニ非スシテ固有ノ國  
體ハ憲法ニ由テ益鞏固ナルコトヲ示スナリ

## 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

恭テ按スルニ神祖開國以來時ニ盛衰アリト雖、世ニ治亂アリト雖、  
皇統一系寶祚ノ隆ハ天地ト與ニ窮ナシ本條首メニ立國ノ大義ヲ  
掲ケ我カ日本帝國ハ一系ノ皇統ト相依テ終始シ古今永遠ニ亘リ  
一アリテ二ナク常アリテ變ナキコトヲ示シ以テ君民ノ關係ヲ萬  
世ニ昭カニス

統治ハ大位ニ居リ大權ヲ統ヘテ國土及臣民ヲ治ムルナリ古典ニ  
天祖ノ勅ヲ舉ケテ瑞穗國<sup>ハレカ</sup>是吾子孫可王之地宜爾皇孫就而治焉<sup>ユキテシラセ</sup>ト  
云ヘリ又神祖ヲ稱ヘタテマツリテ始御國<sup>ハツクニシラス</sup>天皇ト謂ヘリ日本武尊  
ノ言ニ吾者經向ノ日代宮ニ坐シテ大八島國知ロシメス大帶日子淤

斯呂和氣天皇ノ御子トアリ文武天皇即位ノ詔ニ天皇カ御子ノアレマサム彌繼繼ニ大八島國知ラサム次トノタマヒ又天下ヲ調ヘタマヒ平ケタマヒ公民ヲ惠ミタマヒ撫テタマハムトノタマヘリ世々ノ天皇皆此ノ義ヲ以テ傳國ノ大訓トシタマハサルハナク其ノ後御大八洲天皇ト謂フヲ以テ詔書ノ例式トハナサレタリ所謂「シラス」トハ即チ統治ノ義ニ外ナラス蓋祖宗其ノ天職ヲ重ンシ君主ノ德ハ八洲臣民ヲ統治スルニ在テ一人一家ニ享奉スルノ私事ニ非サルコトヲ示サレタリ此レ乃憲法ノ據テ以テ其ノ基礎ト爲ス所ナリ

我カ帝國ノ版圖古ニ大八島ト謂ヘルハ淡路島即今ノ淡路島秋津島即本

伊豫ノ二名島即四國筑紫島即九州壹岐島津島津島對馬隱岐島佐渡島ヲ

謂ヘルコト古典ニ載セタリ景行天皇東蝦夷ヲ征シ西熊襲ヲ平ケ



疆土大ニ定マル推古天皇ノ時百八十餘ノ國造アリ延喜式ニ至リ六十六國及二島ノ區畫ヲ載セタリ明治元年陸奧出羽ノ二國ヲ分チ七國トス二年北海道ニ十一國ヲ置ク是ニ於テ全國合セテ八十四國トス現在ノ疆土ハ實ニ古ノ所謂大八島延喜式六十六國及各島并ニ北海道沖繩諸島及小笠原諸島トス蓋土地ト人民トハ國ノ以テ成立スル所ノ元質ニシテ一定ノ疆土ハ以テ一定ノ邦國ヲ爲シ而シテ一定ノ憲章共ノ間ニ行ハル故ニ一國ハ一個人ノ如ク一國ノ疆土ハ一個人ノ體軀ノ如ク以テ統一完全ノ版圖ヲ成ス

## 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

恭テ按スルニ皇位ノ繼承ハ祖宗以來既ニ明訓アリ以テ皇子孫ニ傳ヘ萬世易フルコト無シ若夫繼承ノ順序ニ至テハ新ニ勅定スル



所ノ皇室典範ニ於テ之ヲ詳明ニシ以テ皇室ノ家法トシ更ニ憲法ノ條章ニ之ヲ掲クルコトヲ用非サルハ將來ニ臣民ノ干涉ヲ容レサルコトヲ示スナリ

皇男子孫トハ祖宗ノ皇統ニ於ケル男系ノ男子ヲ謂フ此ノ文皇室典範第一條ト詳略相形ハス

### 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

恭テ按スルニ天地剖判シテ神聖位ヲ正ス神代紀蓋天皇ハ天縱惟神至聖ニシテ臣民群類ノ表ニ在リ欽仰スヘクシテ干犯スヘカラス故ニ君主ハ固ヨリ法律ヲ敬重セサルヘカラス而シテ法律ハ君主ヲ責問スルノカヲ有セス獨不敬ヲ以テ其ノ身體ヲ干瀆スヘカラサルノミナラス併セテ指斥言議ノ外ニ在ル者トス

### 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ

# 憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

恭テ按スルニ統治ノ大權ハ天皇之ヲ祖宗ニ承ケ之ヲ子孫ニ傳フ  
 立法行政百揆ノ事凡ソ以テ國家ニ臨御シ臣民ヲ綏撫スル所ノ者  
 一ニ皆之ヲ至尊ニ總ヘテ其ノ綱領ヲ攬ラサルコトナキハ譬ヘハ  
 人身ノ四支百骸アリテ而シテ精神ノ經絡ハ總テ皆其ノ本源ヲ首  
 腦ニ取ルカ如キナリ故ニ大政ノ統一ナラサルヘカラサルハ宛モ  
 人心ノ貳三ナルヘカラサルカ如シ但シ憲法ヲ親裁シテ以テ君民  
 俱ニ守ルノ大典トシ其ノ條規ニ遵由シテ愆ラス遺レサルノ盛意  
 ヲ明カニシタマフハ即チ自ラ天職ヲ重ンシテ世運ト俱ニ永遠ノ  
 規模ヲ大成スル者ナリ蓋統治權ヲ總攬スルハ主權ノ體ナリ憲法  
 ノ條規ニ依リ之ヲ行フハ主權ノ用ナリ體有リテ用無ケレハ之ヲ  
 專制ニ失フ用有リテ體無ケレハ之ヲ散慢ニ失フ

(附記) 歐洲輓近政理ヲ論スル者ノ說ニ曰、國家ノ大權大別シテ  
二トナス、曰立法權行政權而シテ司法ノ權ハ實ニ行政權ノ支派  
タリ三權各、其ノ機關ノ輔翼ニ依リ之ヲ行フコト一ニ皆元首ニ  
淵源ス蓋國家ノ大權ハ之ヲ國家ノ覺性タル元首ニ總ヘサレハ  
以テ其ノ生機ヲ有ツコト能ハサルナリ憲法ハ即チ國家ノ各部  
機關ニ向テ適當ナル定分ヲ與ヘ其ノ經絡機能ヲ有タシムル者  
ニシテ君主ハ憲法ノ條規ニ依リテ其ノ天職ヲ行フ者ナリ故ニ  
彼ノ羅馬ニ行ハレタル無限權勢ノ說ハ固ヨリ立憲ノ主義ニ非  
ス而シテ西曆第十八世紀ノ末ニ行ハレタル三權分立シテ君主  
ハ特ニ行政權ヲ執ルノ說ノ如キハ又國家ノ正當ナル解義ヲ謬  
ル者ナリト是ノ說ハ我カ憲法ノ主義ト相發揮スルニ足ル者ア  
ルヲ以テ茲ニ之ヲ附記シテ以テ參考ニ當ツ



## 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

恭テ按スルニ立法ハ天皇ノ大權ニ屬シ而シテ之ヲ行フハ必議會ノ協賛ニ依ル天皇ハ內閣ヲシテ起草セシメ或ハ議會ノ提案ニ由リ兩院ノ同意ヲ經ルノ後之ヲ裁可シテ始メテ法律ヲ成ス故ニ至尊ハ獨行政ノ中極タルノミナラス又立法ノ淵源タリ

(附記) 之ヲ歐洲ニ參考スルニ百年以來偏理ノ論一タヒ時變ト投合シ立法ノ事ヲ以テ主トシテ議會ノ權ニ歸シ或ハ法律ヲ以テ上下ノ約束トシ君民共同ノ事トスルノ重點ニ傾向シタルハ要スルニ主權統一ノ大義ヲ誤ル者タルコトヲ免レス我カ建國ノ體ニ在テ國權ノ出ル所一ニシテ二ナラサルハ譬ヘハ主一ノ意思ハ以テ能ク百骸ヲ指使スヘキカ如シ而シテ議會ノ設ハ以テ元首ヲ助ケテ其ノ機能ヲ全クシ國家ノ意思ヲシテ精鍊強健

ナラシムルノ効用ヲ見ムトスルニ外ナラス蓋立法ノ大權ハ固  
ヨリ天皇ノ總フル所ニシテ議會ハ乃協翼參贊ノ任ニ居ル本末  
ノ間儼然トシテ紊ルヘカラサル者ナリ

## 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

恭テ按スルニ法律ヲ裁可シ式ニ依リ公布セシメ及執行ノ處分ヲ  
宣命ス裁可ハ以テ立法ノ事ヲ完結シ公布ハ以テ臣民遵行ノ効力  
ヲ生ス此レ皆至尊ノ大權ナリ裁可ノ權旣ニ至尊ニ屬スルトキハ  
其ノ裁可セサルノ權ハ之ニ從フコト言ハスシテ知ルヘキナリ裁  
可ハ天皇ノ立法ニ於ケル大權ノ發動スル所ナリ故ニ議會ノ協贊  
ヲ經ト雖裁可ナケレハ法律ヲ成サス蓋古言ニ法ヲ訓ミテ宣トス  
播磨風土記云オホノリ大法山今名勝部岡品太天皇於此山宣ノリタマフオホノリヲ大法故曰大法  
山ト言語ハ古傳遺俗ヲ徵明スルノ一大資料タリ而シテ法律ハ即

千王言ナルコトハ古人既ニ一定ノ釋義アリテ謬ラサリシナリ

(附記) 之ヲ歐洲ニ參考スルニ君主法案ノ成議ヲ拒ムノ權ヲ論スル者其ノ說一ニ非ス英國ニ於テハ此レヲ以テ君主ノ立法權ニ屬シ三體<sub>君主及上院</sub>平衡ノ兆證トシ佛國ノ學者ハ此レヲ以テ行政ノ立法ニ對スル節制ノ權トス抑彼ノ所謂拒否ノ權ハ消極ヲ以テ主義トシ法ヲ立ツル者ハ議會ニシテ之ヲ拒否スル者ハ君主タリ此レ或ハ君主ノ大權ヲ以テ行政ノ一偏ニ限局シ或ハ君主ヲシテ立法ノ一部分ヲ占領セシムルノ論理ニ出ル者ナルニ過キス我カ憲法ハ法律ハ必王命ニ由ルノ積極ノ主義ヲ取ル者ナリ故ニ裁可ニ依テ始メテ法律ヲ成ス夫レ唯王命ニ由ル故ニ從テ裁可セサルノ權アリ此レ彼ノ拒否ノ權ト其ノ跡相似テ其ノ實ハ霄壤ノ別アル者ナリ



第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會  
及衆議院ノ解散ヲ命ス

恭テ按スルニ議會ヲ召集スルハ專ラ至尊ノ大權ニ屬ス召集ニ由  
ラスシテ議院自ラ會集スルハ憲法ノ認ムル所ニ非ス而シテ其ノ  
議スル所ノ事總テ効力ナキ者トス

召集ノ後議會ヲ開閉シ兩院ノ始終ヲ制スルハ亦均ク至尊ノ大權  
ニ由ル開會ノ初天皇親ラ議會ニ臨ミ又ハ特命勅使ヲ派シテ勅語  
ヲ傳ヘシムルヲ式トシ而シテ議會ノ議事ヲ開始スルハ必其ノ後  
ニ於テス開會ノ前閉會ノ後ニ於テ議事ヲ爲ス者ハ總テ無効トス  
停會ハ議會ノ議事ヲ中絶セシムルノ謂ナリ有期ノ停會ハ其ノ期  
ヲ經テ再ヒ會議ヲ繼續ス

衆議院ヲ解散スルハ更ニ新選ノ議院ニ向テ輿論ノ屬スル所ヲ問

フ所以ナリ此ニ貴族院ヲ謂ハサルハ貴族院ハ停會スヘクシテ解散スヘカラサレハナリ

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ

避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

恭テ按スルニ國家一旦急迫ノ事アルニ臨ミ又ハ國民凶荒癘疫及其ノ他ノ災害アルニ當テ公共ノ安全ヲ保テ其ノ災厄ヲ豫防救濟スル爲ニ力ノ及フ所ヲ極メテ必要ノ處分ヲ施サ、ルコトヲ得ス此ノ時ニ於テ議會偶開會ノ期ニ在ラサルニ當テハ政府ハ進テ其

ノ責ヲ執リ勅令ヲ發シテ法律ニ代ヘ遺計無ラシムルハ國家自衛  
及保護ノ道ニ於テ固ヨリ已ムヲ得サルニ出ル者ナリ故ニ前第五  
條ニ於テ立法權ノ行用ハ議會ノ協賛ヲ經ト云ヘルハ其ノ常ヲ示  
スナリ本條ニ勅令ヲ以テ法律ニ代フルコトヲ許スハ緊急時機ノ  
爲ニ除<sup>外</sup>例ヲ示スナリ是ヲ緊急命令ノ權トス抑<sup>ス</sup>緊急命令ノ權  
ハ憲法ノ許ス所ニシテ又憲法ノ尤濫用ヲ戒ムル所ナリ憲法ハ公  
共ノ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ避クル爲ノ緊急ナル必要ニ限り此  
ノ特權ヲ用非ルコトヲ許シ而シテ利益ヲ保護シ幸福ヲ増進スル  
ノ通常ノ理由ニ因リ之ヲ濫用スルコトヲ許サス故ニ緊急命令ハ  
其ノ之ヲ發スルニ當テ本條ニ準據スルコトヲ宣告スルヲ式トス  
ヘキナリ若政府ニシテ此ノ特權ニ託シ容易ニ議會ノ公議ヲ回避  
スルノ方便トナシ又以テ容易ニ既定ノ法律ヲ破壞スルニ至ルコ



トアラハ憲法ノ條規ハ亦空文ニ歸シ一モ臣民ノ爲ニ保障ヲ爲スコト能ハサラムトス故ニ本條ハ又議會ヲ以テ此ノ特權ノ監督者タラシメ緊急命令ヲ事後ニ検査シテ之ヲ承諾セシムヘキコトヲ定メタリ

本條ハ憲法ノ中ニ於テ疑問尤多キ者トス今逐一問目ヲ設ケテ以テ之ヲ解釋セムトス第一此ノ勅令ハ以テ法律ノ曠缺ヲ補充スルニ止マルカ又ハ現行ノ法律ヲ停止シ變更シ廢止スルコトヲ得ルカ曰此ノ勅令ハ既ニ憲法ニ依リ法律ニ代ルノ力ヲ有スルトキハ凡ツ法律ノ爲スコトヲ得ルノ事ハ皆此ノ勅令ノ爲スコトヲ得ル所タリ但シ次ノ會期ニ於テ議會若之ヲ承諾セサルトキハ政府ハ此ノ勅令ノ効力ヲ失フコトヲ公布スルト同時ニ其ノ廢止又ハ變更シタル所ノ法律ハ總テ其ノ舊ニ復スヘキナリ第二議會ニシテ

此ノ勅令ヲ承諾スルトキハ其ノ効力ハ如何曰更ニ公布ヲ待タス  
シテ勅令ハ將來ニ法律ノ効力ヲ繼續スヘキナリ第三議會ニシテ  
此ノ勅令ノ承諾ヲ拒ムトキハ政府ハ更ニ將來ニ効力ヲ失フノ旨  
ヲ公布スルノ義務ヲ負フハ何ソ乎曰公布ニ依テ始メテ人民遵守  
ノ義務ヲ解ケハナリ第四議會ハ何ノ理由ニ因リ其ノ承諾ヲ拒ム  
コトヲ得ヘキヤ曰此ノ勅令ノ憲法ニ矛盾シ又ハ本條ニ掲ケタル  
要件ヲ缺キタルコトヲ發見シタルトキ又ハ其ノ他ノ立法上ノ意  
見ニ由リ承諾ヲ拒ムコトヲ得ヘシ第五此ノ勅令ニシテ政府若次  
ノ會期ニ於テ之ヲ議會ニ提出セサルトキ或ハ議會其ノ承諾ヲ拒  
ムノ後政府ニ於テ仍廢止ノ令ヲ發セサルトキハ如何曰政府ハ憲  
法違反ノ責ヲ負フヘキナリ第六議會若承諾ヲ拒ムトキハ前日ニ  
沛リ勅令ノ効力ヲ取消スコトヲ求ムルコトヲ得ルカ曰憲法既ニ

君主ノ緊急命令ヲ發シテ以テ法律ニ代フルコトヲ許シタルトキハ其ノ勅令ノ成存スルノ日ハ其ノ効力ヲ有スヘキハ固ヨリ當然タリ故ニ議會之ヲ承諾セサルトキハ單ニ將來ニ法律トシテ繼續ノ効力ヲ有スルコトヲ拒ムコトヲ得而シテ之ヲ過去ニ及ホスコトヲ得サルナリ第七議會ハ勅令ヲ修正シテ以テ之ヲ承諾スルトヲ得ヘキカ曰本條ノ正文ニ依レハ議會ハ之ヲ承諾シ又ハ承諾セサルノ二途ノ一ヲ取ルコトヲ得而シテ之ヲ修正スルコトヲ得サルナリ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス



恭テ按スルニ本條ハ行政命令ノ大權ヲ掲クルナリ蓋法律ハ必議會ノ協賛ヲ經而シテ命令ハ專ラ天皇ノ裁定ニ出ツ命令ノ由テ發スル所ノ目的二アリ一ニ曰法律ヲ執行スル爲ノ處分并ニ詳節ヲ規定ス二ニ曰公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ノ必要ニ於テス此レ皆至尊行政ノ大權ニ依リ立法ノ軌轍ニ由ラスレテ一般遵由ノ條規ヲ設クルコトヲ得ル者ナリ蓋法律ト命令トハ均ク臣民ニ遵守ノ義務ヲ負ハシムル者ナリ但シ法律ハ以テ命令ヲ變更スルコトヲ得ヘク命令ハ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス若兩々相矛盾スルノ事アルニ至レハ法律ハ常ニ命令ノ上ニ効力ヲ有スヘキナリ

命令ハ均ク至尊ノ大權ニ由ル而シテ其ノ勅裁ニ出テ親署ヲ經ル者之ヲ勅令トス其ノ他閣省ノ命令ハ皆天皇大權ノ委任ニ由ル本

條ニ命令ヲ發シ又ハ發セシムト謂ヘルハ此ノ兩般ノ命令ヲ兼ネテ之ヲ指言スルナリ

前條ニ掲ケタル緊急命令ハ以テ法律ニ代ハルコトヲ得本條ニ掲クル行政命令ハ以テ法律ノ範圍ノ内ニ處分シ又ハ法律ノ曠闕ヲ補充スルコトヲ得ルモ法律ヲ變更シ及憲法ニ特ニ掲ケテ法律ヲ要スル所ノ事件ヲ規定スルコトヲ得ス行政命令ハ常ニ用井ル所ニシテ緊急命令ハ變ニ處スル所ナリ

(附記) 之ヲ歐洲ニ參考スルニ命令ノ區域ヲ論スル者其ノ主義一ナラス第一ニ佛國白國ノ憲法ハ命令ノ區域ヲ以テ專ラ法律ヲ執行スルニ止メ而シテ普國ノ憲法亦之ニ模倣シタルハ君主行政ノ大權ヲ狹局ノ範圍ノ内ニ制限スルノ謬見タルコトヲ免レス蓋所謂行政ハ固ヨリ法律ノ條則ヲ執行スルニ止マラス何

トナレハ法律ハ普通準繩ノ爲ニ其ノ大則ヲ定ムルノ能力アリ  
テ而シテ萬殊事物ノ活動ニ對シ逐一ニ其ノ權宜ヲ指示スルコ  
ト能ハサルハ宛モ一個人ノ豫定セル心志ハ以テ行動ノ方嚮ヲ  
指導スヘシト雖變化窮リナキノ事緒ニ順應シテ其ノ機宜ヲ愆  
ラサルハ又必臨時ノ思慮ヲ要スルカ如シ若行政ニシテ法律ヲ  
執行スルノ限闕ニ止マラシメハ國家ハ法律ノ曠闕ナル地ニ於  
テハ其ノ當然ノ職ヲ盡スニ由ナカラムトス故ニ命令ハ獨執行  
ノ作用ニ止マラスシテ又時宜ノ必要ニ應シ其ノ固有ノ意思ヲ  
發動スルコトアル者ナリ第二ニ法理ヲ論スル者安寧秩序ヲ保  
持スルヲ以テ行政命令ノ唯一ノ目的トスル者アルハ此レ亦行  
政ノ區域ヲ定ムルニ適當ナル釋義ヲ缺ク者ナリ蓋古歐陸各國  
政府ハ安寧ヲ保持スルヲ以テ最大職任トシ其ノ內治ニ於ケル



ハ一ニ苟簡ヲ以テ主ト爲シタリシニ人文漸ク開ケ政治益進ム  
ニ及テ始メテ經濟及教育ノ方法ニ倚リ人民ノ生活及智識ヲ發  
達セシメ其ノ幸福ヲ增進スルノ必要ヲ發見スルニ至レリ故ニ  
行政命令ノ目的ハ獨警察ノ消極手段ニ止マラスシテ更ニ一步  
ヲ進メ經濟上國民ノ生活ヲ富殖シ教育上其ノ智識ヲ開發スル  
ノ積極手段ヲ取ルコトヲ務メサルヘカラサルナリ但シ行政ハ  
固ヨリ各人ノ法律上ノ自由ヲ干スヘカラス其ノ適當ナル範圍  
ニ於テ勸導扶掖シテ其ノ發達ヲ喚起スヘキナリ行政ハ固ヨリ  
法律ノ既ニ制定セル限界ヲ離レスシテ法律ヲ保護シ以テ國家  
ノ職ヲ當然ノ區域ノ内ニ盡スヘキナリ

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定  
メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ

特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

恭テ按スルニ至尊ハ建國ノ必要ニ依リ行政各部ノ官局ヲ設置シ其ノ適當ナル組織及職權ヲ定メ文武ノ材能ヲ任用シ及之ヲ罷免スルノ大權ヲ執ル之ヲ上古ニ考フルニ神武天皇大業ヲ定メ國造縣主ヲ置ク是ヲ立官ノ始メテ史乘ニ見ユル者トス孝德天皇八省ヲ置キ職官大ニ備ハル維新ノ初大寶ノ舊ニ依リ増損スル所アリ其ノ後屢更張ヲ經官制及俸給ノ制ヲ定メラル而シテ大臣ハ天皇ノ親ク任免スル所タリ勅任以下高等官ハ大臣ノ上奏ニ由リ裁可シテ之ヲ任免ス均ク皆至尊ノ大命ニ出サルハアラス但シ裁判所及會計検査院ノ構成ハ勅令ニ依ラスシテ法律ヲ以テ之ヲ定メ裁判官ノ罷免ハ裁判ニ依リ之ヲ行フハ此レ憲法及法律ノ掲クル所ノ特例ニ依ルモノナリ

官ヲ分チ職ヲ設クルコト既ニ王者ノ大權ニ屬スルトキハ俸祿ヲ  
給與スルコト亦從テ之ニ附屬スヘキナリ

(附記) 之ヲ獨逸ノ史乘ニ考ルニ昔時官吏ノ任免ハ專ラ君主及  
長官ノ隨意ニ任セタリシニ第十七世紀ニ及テ帝國大裁判所ノ  
裁判官ハ裁判ニ由ラサレハ其ノ官ヲ免スルコト能ハストナシ  
此ノ原則ヲ帝國參事官ニモ適用シタリ其ノ後第十八世紀ニ至  
リテ行政官吏ノ任職モ亦其ノ確定權利ニ屬スルノ説行ハレ往  
々各國法律ノ採用スル所トナリタリシニ第十九世紀ノ初ニ及  
テ官吏ハ俸給ニ就キ確定ノ權利ヲ有スト雖其ノ職ニ就キ之ヲ  
有スルコトナシ故ニ俸給又ハ恩給ヲ與ヘテ其ノ職ヲ免スルハ  
行政上ノ處分ヲ以テ足レリトストノ主義ヲ論スル者アリ此ノ  
論理ハ首ニ巴威倫ノ官吏ノ職制法ノ掲クル所トナリ政府ハ懲



戒裁判ニ由ラスシテ行政上ノ便宜ニ由リ官吏ノ官階及官階俸ヲ存シテ其ノ職務及職務俸及職服ヲ解クコトヲ得セシメタリ  
千八百十  
八年法 獨英國ハ獨逸各國ト固ヨリ其ノ例ヲ殊ニシ或ル一部  
ノ官吏ヲ除ク外ハ君主ハ隨意ニ文武官ヲ任免スルノ特權アル  
モノトスルコト今仍古ノ如キナリ

## 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

恭テ接スルニ太祖實ニ神武ヲ以テ帝國ヲ肇造シ物部韋負部來目  
部ヲ統率シ嗣後歷代ノ天子内外事アレハ自ラ元戎ヲ帥井征討ノ  
勞ヲ親ラシ或ハ皇子皇孫ヲシテ代リ行カシメ而シテ臣連二造ハ  
其ノ褊裨タリ天武天皇兵政官長ヲ置キ文武天皇大ニ軍令ヲ修メ  
三軍ヲ總フルコトニ大將軍一人アリ大將ノ出征ニハ必節刀ヲ授  
ク兵馬ノ權ハ仍朝廷ニ在リ其ノ後兵柄一タヒ武門ニ歸シテ政綱

從テ衰ヘタリ

今上中興ノ初親征ノ詔ヲ發シ大權ヲ總攬シ爾來兵制ヲ釐革シ積弊ヲ洗除シ帷幕ノ本部ヲ設ケ自ラ陸海軍ヲ總ヘタマフ而シテ祖宗ノ耿光遺烈再ヒ其ノ舊ニ復スルコトヲ得タリ本條ハ兵馬ノ統一ハ至尊ノ大權ニシテ專ラ帷幄ノ大令ニ屬スルコトヲ示スナリ

## 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

恭テ按スルニ本條ハ陸海軍ノ編制及常備兵額モ亦天皇ノ親裁スル所ナルコトヲ示ス此レ固ヨリ責任大臣ノ輔翼ニ依ルト雖亦帷幄ノ軍令ト均ク至尊ノ大權ニ屬スヘクシテ而シテ議會ノ干渉ヲ須タサルヘキナリ所謂編制ノ大權ハ之ヲ細言スレハ軍隊艦隊ノ編制及管區方面ヨリ兵器ノ備用給與軍人ノ教育檢閲紀律禮式服制備戍城寨及海防守港並ニ出師準備ノ類皆其ノ中ニ在ルナリ常

備兵額ヲ定ムト謂フトキハ毎年ノ徵員ヲ定ムルコト亦其ノ中ニ在ルナリ

### 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

恭テ按スルニ外國ト交戰ヲ宣告シ和親ヲ講盟シ及條約ヲ締結スルノ事ハ總テ至尊ノ大權ニ屬シ議會ノ參贊ヲ假ラス此レ一ハ君主ハ外國ニ對シ國家ヲ代表スル主權ノ統一ヲ欲シ二ハ和戰及條約ノ事ハ專ラ時機ニ應シ籌謀敏速ナルヲ尙フニ由ルナリ諸般ノ條約トハ和親貿易及聯盟ノ約ヲ謂フナリ

(附記) 歐洲ノ舊例ニ依ルニ中古各國ノ君主ハ往々外交ノ事ヲ親ラシ英國「ウヰリヤム」三世ノ如キハ躬外務長官ノ任ニ當リ當時ノ人其ノ尤外交事務ニ長シタルコトヲ稱贊シタリ近時立憲



ノ主義漸クニ進歩ヲ加フルニ及テ各国外交ノ事務亦責任宰相ノ管掌ニ屬シ君主ハ其ノ輔翼ニ倚リテ之ヲ行フコト他ノ行政事務ト一般ナルニ至レリ那破列翁佛國ノ執權タリシ時兩國講和ノ文函ヲ作り直ニ英國ノ君主ニ贈リシニ英國ハ其ノ書ヲ受ケテ而シテ外務執政ノ書ヲ以テ之ニ答ヘタリ今日國際法ニ於テ慶弔ノ親書ヲ除ク外各國交際條約ノ事總テ皆執政大臣ヲ經由スルハ列國ノ是認スル所ナリ本條ノ掲クル所ハ專ラ議會ノ關涉ニ由ラスシテ天皇其ノ大臣ノ輔翼ニ依リ外交事務ヲ行フヲ謂フナリ

#### 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

恭テ按スルニ戒嚴ハ外敵内變ノ時機ニ臨ミ常法ヲ停止シ司法及

行政ノ一部ヲ舉ケテ之ヲ軍事處分ニ委ヌル者ナリ本條ハ戒嚴ノ要件及効力ヲ以テ法律ノ定ムル所トシ其ノ法律ノ條項ニ準據シテ時ニ臨テ之ヲ宣告シ又ハ其ノ宣告ヲ解クハ之ヲ至尊ノ大權ニ歸シタリ要件トハ戒嚴ヲ宣告スルノ時機及區域ニ於ケル必要ナル限局及宣告スル爲ノ必要ナル規程ヲ謂フ効力トハ戒嚴ヲ宣告スルノ結果ニ依リ權力ノ及フ所ノ限界ヲ謂フ

合圍ノ地ニ在テ戰權ヲ施行シ臨時戒嚴ヲ宣告スルハ之ヲ其ノ地ノ司令官ニ委子處分シテ後ニ上申スルコトヲ許ス此レ又法律ニ於テ便宜ニ至尊ノ大權ヲ將帥ニ委任スル者ナリ

十五年三十  
六號布告

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

恭テ按スルニ至尊ハ榮譽ノ源泉ナリ蓋功ヲ賞シ勞ニ酬ヒ及卓行善舉ヲ表彰シ顯榮ノ品位紀章及殊典ヲ授與スルハ專ラ至尊ノ大

權ニ屬ス而シテ臣子ノ竊弄ヲ容サ、ル所ナリ我カ國太古簡朴ノ世加一婆一褊ヲ以テ貴賤ノ別ヲ爲ス推古天皇始メテ冠位十二階ヲ定メ諸臣ニ頒チ賜フ天武天皇定メテ四十八階トナス文武天皇賜冠ヲ停メテ易フルニ位記ヲ以テス大寶令載スル所凡ソ三十階是レ今ノ位階ノ因テ起ル所ナリ又勳位十二等ハ以テ武功ヲ賞シ及孝弟力田ノ人ニ賜ヘリ中古以降武門專權ノ時ニ當テ賞罰ノ柄既ニ幕府ニ移ルト雖叙授ノ儀典ハ猶朝廷ニ屬スルコトヲ失ハサリシ維新ノ後明治二年位制ヲ定メ一位ヨリ九位ニ至ル八年勳等賞牌ノ制ヲ定メ十七年五等爵ノ制ヲ定ム此レ皆以テ賞獎ヲ昭ニシ顯榮ノ大典ヲ示ス者ナリ

## 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

恭テ按スルニ國家既ニ法廷ヲ設ケ法司ヲ置キ正理公道ヲ以テ平



等ニ臣民ノ權利ヲ保護セシム而シテ猶法律ノ未タ各般ノ人事ヲ  
曲悉スルニ足ラスシテ時アリテ犯人事情仍憫諒スヘキ者アリ立  
法及司法ノ軌轍遂ニ以テ其ノ闕漏ニ周匝ナナルコト能ハサラムコ  
トヲ恐ル故ニ恩赦ノ權ハ至尊慈仁ノ特典ヲ以テ法律ノ及ハサル  
所ヲ補濟シ一民ノ其ノ情ヲ得サル者無ラシメムコトヲ期スルナ  
リ

大赦ハ特別ノ場合ニ於テ殊例ノ恩典ヲ施行スル者ニシテ一ノ種  
類ノ犯罪ニ對シ之ヲ赦スナリ特赦ハ一個犯人ニ對シ其ノ刑ヲ赦  
スナリ減刑ハ既ニ宣告セラレタルノ刑ヲ減スルナリ復權ハ既ニ  
剝奪セラレタルノ公權ヲ復スルナリ

第四條以下第十六條ニ至ルマテ元首ノ大權ヲ列舉ス抑、元首ノ大  
權ハ憲法ノ正條ヲ以テ之ヲ制限スルノ外及ハサル所ナキコト宛

モ太陽ノ光線ノ遮蔽ノ外ニ映射セサル所ナキカ如シ此レ固ヨリ  
逐節叙列スルヲ待チテ始メテ存立スル者ニ非ス而シテ憲法ノ掲  
タル所ハ既ニ其ノ大綱ヲ擧ケ又其ノ節目中ノ要領ナル者ヲ羅列  
シテ以テ標準ヲ示スニ過キサルノミ故ニ鑄幣ノ權度量ヲ定ムル  
ノ權ノ如キハ一々之ヲ詳ニスルニ及ハス其ノ之ヲ略スルハ即チ  
之ヲ包括スル所以ナリ

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル  
攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

恭テ按スルニ攝政ハ天皇ノ事ヲ攝行ス故ニ凡ソ至尊ノ名分ヲ除  
ク外一切ノ大政總テ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行ヒ又大政ニ付キ其ノ  
責ニ任セサルコト一ニ天皇ニ同シ但シ第七十五條ノ場合ニ於テ  
制限スル所アルノミ天皇ノ名ニ於テト謂ヘルハ天皇ニ代テト謂

ヘルノ義ノ如シ蓋攝政ノ政令ハ即チ天皇ニ代リ之ヲ宣布スルナ  
リ  
攝政ヲ置クハ皇室ノ家法ニ依ル攝政ニシテ王者ノ大權ヲ總攬ス  
ルハ事國憲ニ係ル故ニ後者ハ之ヲ憲法ニ掲ケ前者ハ皇室典範ノ  
定ムル所ニ依ル蓋攝政ヲ置クノ當否ヲ定ムルハ專ラ皇室ニ屬ス  
ヘクシテ而シテ臣民ノ容議スル所ニ非ス抑天子遑豫ノ事アリテ  
政治ヲ親ラスルコト能ハサルハ稀ニ見ル所ノ變局ニシテ而シテ  
國家動亂ノ機亦往々此時ニ伏ス彼ノ或國ニ於テ兩院ヲ召集シ兩  
院合會シテ攝政ヲ設クルノ必要ヲ議決スルコトヲ憲法ニ掲クル  
カ如キハ皇室ノ大事ヲ以テ民議ノ多數ニ委子皇統ノ尊嚴ヲ干瀆  
スルノ漸ヲ啓ク者ニ近シ本條攝政ヲ置クノ要件ヲ皇室典範ニ讓  
リ之ヲ憲法ニ載セサルハ蓋專ラ國體ヲ重シ微ヲ防キ漸ヲ慎ム



## 第二章 臣民權利義務

第二章ハ第一章ニ次キ臣民ノ權利及義務ヲ掲ク蓋祖宗ノ政ハ專  
ラ臣民ヲ愛重シテ名クルニ大寶ノ稱ヲ以テシタリ非常赦ノ時檢

非違使佐、囚徒ニ仰スルノ詞ニ爲公御財御調物備進ト云ヘリ江家次第

歷世ノ天子即位ノ日ハ皇親以下天下ノ人民ヲ集メ大詔ヲ宣ウタマ

フノ詞ニ集侍皇子等ウコナハレルミコ王ウヂ臣ウヂ百官人等天下公民諸、聞食ト詔ル

トアリ史臣用井ル所ノ公民ノ字ハ即チ「オホミタカラ」ノ名稱ヲ譯

シタルナリ其ノ臣民ニ在テ亦自ラ稱ヘテ御民ト云天平六年海犬

養宿禰岡麻呂應詔歌ニミタミワレ、イケル、シルシ、アリ、アメツチノ、

サカユルトキニ、アヘラク、オモヘハト謂ヘル是ナリ蓋上ニ在テハ

愛重ノ意ヲ致シ待ツニ邦國ノ寶ヲ以テシ下ニ在テハ大君ニ服從  
シ自ラ視テ以テ幸福ノ臣民トス是レ我カ國ノ典故舊俗ニ存スル者  
ニシテ本章ニ掲クル所ノ臣民ノ權利義務亦此ノ義ニ源流スルニ  
外ナラス抑、中古、武門ノ政、士人ト平民トノ間ニ等族ヲ分チ甲者公  
權ヲ專有シテ乙者預ラサルノミナラス其ノ私權ヲ併セテ乙者其  
ノ享有ヲ全クスルコト能ハス公民ノ義、是ニ於テ滅絶シテ伸ヒサ  
ルニ近シ維新ノ後、屢、大令ヲ發シ士族ノ殊權ヲ廢シ日本臣民タル  
者始メテ平等ニ其ノ權利ヲ有シ其ノ義務ヲ盡スコトヲ得セシメ  
タリ本章ノ載スル所ハ實ニ中興ノ美果ヲ培植シ之ヲ永久ニ保明  
スル者ナリ

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ  
依ル

日本臣民トハ外國臣民ト之ヲ區別スルノ謂ナリ日本臣民タル者ハ各法律上ノ公權及私權ヲ享有スヘシ此レ臣民タルノ要件ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ必要トスル所以ナリ日本臣民タルニ二ツノ類アリ第一ハ出生ニ因ル者第二ハ歸化又ハ其ノ他法律ノ効力ニ依ル者

國民ノ身分ハ別法ノ定ムル所ニ依ル但シ私權ノ完全ナル享有ト及公權ハ專ラ國民ノ身分ニ伴隨スルヲ以テ特ニ別法ヲ以テ之ヲ定ムルノ旨ヲ憲法ニ掲グルコトヲ怠ラス故ニ別法ノ掲グル所ハ即チ憲法ノ指命スル所タリ又憲法ニ於ケル臣民權利義務ノ由テ係屬スル所タリ

選舉被選ノ權任官ノ權ノ類之ヲ公權トス公權ハ憲法又ハ其ノ他ノ法律ニ依テ之ヲ認定シ專ラ本國人ノ享有スル所トシテ之ヲ外



國人ニ許サ、ルハ各國普通ノ公法ナリ私權ニ至テハ内外ノ間ニ懸絶ノ區別ヲナシタルハ既ニ歷史上ノ往事ニ屬シ今日ハ一二ノ例外ヲ除ク外各國大抵外國人ヲシテ本國人ト同様ニ之ヲ享受スルコトヲ得セシムルノ傾向ヲ取リタリ

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

文武官ニ登任シ及其ノ他ノ公務ニ就クハ門閥ニ拘ラス是ヲ維新改革ノ美果ノ一トス往昔門地ヲ以テ品流ヲ差別セシ時ニ當テハ官ヲ以テ家ニ屬シ族ニ依テ職ヲ襲キ賤類ニ出ル者ハ才能アリト雖顯要ニ登用セラル、コトヲ得ス維新ノ後陋習ヲ一洗シテ門閥ノ弊ヲ除キ爵位ノ等級ハ一モ就官ノ平等タルニ妨クルコトナシ

此レ乃憲法ノ之ヲ本條ニ保明スル所ナリ但シ法律命令ヲ以テ定ムル所ノ相當資格即チ年齡納稅及試驗能力ノ諸般資格ハ仍官職及公務ニ就クノ要件タルノミ

日本臣民ハ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得ト謂フトキハ特別ノ規定アルニ依ルノ外外國臣民ニ此ノ權利ヲ及ホサ、ルコト知ルヘキナリ

## 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

日本臣民ハ日本帝國成立ノ分子ニシテ俱ニ國ノ生存獨立及光榮ヲ護ル者ナリ上古以來我カ臣民ハ事アルニ當テ其ノ身家ノ私ヲ犠牲ニシ本國ヲ防護スルヲ以テ丈夫ノ事トシ忠義ノ精神ハ榮譽ノ感情ト俱ニ人々祖先以來ノ遺傳ニ根因シ心肝ニ浸漸シテ以テ

一般ノ風氣ヲ結成シタリ聖武天皇ノ詔ニ曰大伴佐伯宿禰ハ常モ  
云フゴトク天皇カ朝守リ仕ヘ奉ル事願ミナキ人等ニアレハ汝等  
ノ祖ドモノ云ヒ來ラク海行カバ、ミヅク屍山行カバ草ムス屍王ノ  
ヘニコソ死ナメ、ノドニハ死ナジト云ヒ來ル人等トナモ聞シメス  
ト、此ノ歌即チ武臣ノ相傳ヘテ以テ忠武ノ教育ヲナセル所ナリ大  
寶以來軍團ノ設アリ海内丁壯兵役ニ堪フル者ヲ募ル持統天皇ノ  
時毎國正丁四分ノ一ヲ取レルハ即チ徵兵ノ制ノ由テ始マル所ナ  
リ武門執權ノ際ニ至テ兵農職ヲ分チ兵武ノ事ヲ以テ一種族ノ專  
業トシ舊制久ク失ヒタリシニ維新ノ後明治四年武士ノ常職ヲ解  
キ五年古制ニ基キ徵兵ノ令ヲ頒行シ全國男兒二十歳ニ至ル者ハ  
陸軍海軍ノ役ニ充タシメ平時毎年ノ徵員ハ常備軍ノ編制ニ從ヒ  
而シテ十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ハ盡ク國民軍トシ戰時ニ當リ



臨時召集スルノ制トシタリ此レ徵兵法ノ現行スル所ナリ本條ハ法律ノ定ムル所ニ依リ全國臣民ヲシテ兵役ニ服スルノ義務ヲ執ラシメ類族門葉ニ拘ラス又一般ニ其ノ志氣身體ヲ併セテ平生ニ教養セシメ一國雄武ノ風ヲ保持シテ將來ニ失墜セシメサラムコトヲ期スルナリ

## 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

納稅ハ一國共同生存ノ必要ニ供應スル者ニシテ兵役ト均ク臣民ノ國家ニ對スル義務ノ一タリ

租稅ハ古言ニ「チカラ」ト云民力ヲ輸スノ義ナリ稅ヲ課スルヲ「オフス」ト云各人ニ負ハシムルノ義ナリ祖宗既ニ統治ノ義ヲ以テ國ニ臨ミタマヒ國庫ノ費ハ之ヲ全國ノ正供ニ取ル租稅ノ法由テ來ル

所久シ孝徳天皇租庸調ノ制ヲ行ヒ維新ノ後地租ノ改正ヲ行フ是  
ヲ税法ノ二大變革トス其ノ詳ナルハ志籍ニ備ハルヲ以テ茲ニ之  
ヲ註明セス蓋租稅ハ臣民國家ノ公費ヲ分擔スルモノニシテ徵求  
ニ供給スル獻饋ノ類ニ非サルナリ又承諾ニ起因スル德澤ノ報酬  
ニ非サルナリ

(附記) 佛國ノ學者ハ其ノ偏理ノ見ヲ以テ租稅ノ義ヲ論シタリ  
千七百八十九年ミラポー氏カ佛國人民ニ向テ國費ヲ募ルノ公  
文ニ曰租稅ハ享ル所ノ利益ニ酬ユル代價ナリ公共安寧ノ保護  
ヲ得ムカ爲ノ前拂ナリト、エミル、ド、ヂラルヂン氏ハ又說ヲ爲シ  
テ曰租稅ハ權利ノ享受、利益ノ保護ヲ得ルノ目的ノ爲ニ國ト名  
ケタル一會社ノ社員ヨリ納ムル所ノ保險料ナリト此レ皆民約  
ノ主義ニ淵源シ納稅ヲ以テ政府ノ職務ト人民ノ義務ト互相交

換スルノ物トスル者ニシテ其ノ説巧ナリト雖實ニ千里ノ謬タルコトヲ免レズ蓋租稅ハ一國ノ公費ニシテ一國ノ分子タル者ハ均ク其ノ共同義務ヲ負フヘキナリ故ニ臣民ハ獨現在ノ政府ノ爲ニ納稅スヘキノミナラス又前世過去ノ負債ノ爲ニモ納稅セサルコトヲ得ス獨得ル所ノ利益ノ爲ニ供給スヘキノミナラス其ノ利益ヲ享受セサルモ亦之ヲ供給セサルコトヲ得ス抑、經費ハ所及儉省ナラムコトヲ欲シ租稅ハ所及薄カラムコトヲ欲ス此レ固ヨリ政府ノ本務ニシテ而シテ議會ノ財政ヲ監督シ租稅ヲ議定スルニ於ケル立憲ノ要義亦此レニ外ナラス然ルニ若租稅ノ義務ヲ以テ之ヲ上下相酬ノ市道ナリトシ納稅ノ諾否ハ專ラ享クル所ノ利益ト乗除相關ル者トセハ人々自ラ其ノ胸臆ニ斷定シテ以テ年租ヲ拒ムコトヲ得ム而シテ國家ノ成立危殆



ナラサラムコトヲ欲スルモ得ヘカラサルヘシ近時ノ論者既ニ  
前説ノ非ヲ辯シテ餘蘊ナカラシメ而シテ租税ノ定義纔ニ歸着  
スル所ヲ得タリ今其ノ一二ヲ舉クルニ曰租税ハ國家ヲ保持ス  
ル爲ニ設クル者ナリ政府ノ職務ニ酬ユルノ代價ニ非ス何トナ  
レハ政府ト國民トノ間ニ契約アリテ存セサレハナリ(佛國フオ  
スタン、エ  
氏リ)曰國家ハ租税ヲ賦課スルノ權アリ而シテ臣民ハ之ヲ納ム  
ルノ義務アリ租税ノ法律上ノ理由ハ臣民ノ純然タル義務ニ在  
リ國家ノ本分ト其ノ目的トニ於テ歛クヘカラサルノ費用アル  
ニ從ヒ國ノ分子タル臣民ハ之ヲ供納セサルヘカラス國民ハ無  
形ノ一體トシテ國家ナル自個ノ職分ノ爲ニ資需ヲ給スヘク而  
シテ各人ハ從テ之ヲ納メサルヘカラス何トナレハ各人ハ國民  
ノ一個分子ナレハナリ彼ノ國民及各個ノ臣民ハ國家ノ外ニ立

チ其ノ財産ノ保護ヲ受クル爲ノ報酬ナリトシテ租稅ノ義ヲ解  
釋スルハ極メテ不是ナル謬說ナリト(獨國スタ)此ニ記シテ以テ  
參考ニ充ツ

## 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及 移轉ノ自由ヲ有ス

本條ハ居住及移轉ノ自由ヲ保明ス封建ノ時藩國疆ヲ畫リ各關柵  
ヲ設ケ人民互ニ其ノ本籍ノ外ニ居住スルコトヲ許サス並ニ許可  
ナクシテ旅行及移轉スルコトヲ得ス其ノ自然ノ運動及營業ヲ束  
縛シテ植物ト其ノ類ヲ同クセシメタリシニ維新ノ後廢藩ノ舉ト  
俱ニ居住及移轉ノ自由ヲ認メ凡ソ日本臣民タル者ハ帝國疆内ニ  
於テ何レノ地ヲ問ハス定住シ借住シ寄留シ及營業スルノ自由ア  
ラシメタリ而シテ憲法ニ其ノ自由ヲ制限スルハ必法律ニ由リ行

政處分ノ外ニ在ルコトヲ掲ケタルハ此レヲ貴重スルノ意ヲ明ニ  
スルナリ

以下各條ハ臣民各個ノ自由及財産ノ安全ヲ保明ス蓋法律上ノ自  
由ハ臣民ノ權利ニシテ其ノ生活及智識ノ發達ノ本源タリ自由ノ  
民ハ文明ノ良民トシテ以テ國家ノ昌榮ヲ翼賛スルコトヲ得ル者  
ナリ故ニ立憲ノ國ハ皆臣民各個ノ自由及財産ノ安全ヲ以テ貴重  
ナル權利トシテ之ヲ確保セサルハナシ但シ自由ハ秩序アル社會  
ノ下ニ棲息スル者ナリ法律ハ各個人ノ自由ヲ保護シ又國權ノ必  
要ヨリ生スル制限ニ對シテ其ノ範圍ヲ分割シ以テ兩者ノ間ニ適  
當ノ調和ヲ爲ス者ナリ而シテ各個臣民ハ法律ノ許ス所ノ區域ノ  
中ニ於テ其ノ自由ヲ享受シ綽然トシテ餘裕アルコトヲ得ヘシ此  
レ乃憲法ニ確保スル所ノ法律上ノ自由ナル者ナリ



第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕  
監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

本條ハ人身ノ自由ヲ保明ス逮捕監禁審問ハ法律ニ載スル所ノ場  
合ニ限り其ノ載スル所ノ規程ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ得ヘク而シ  
テ又法律ノ正條ニ依ルニ非スシテ何等ノ所爲ニ對シテモ處罰ス  
ルコトヲ得ス必是ノ如クニシテ然後ニ人身ノ自由始メテ安全ナ  
ルコトヲ得ヘキナリ蓋人身ノ自由ハ警察及治罪ノ處分ト密切ノ  
關係ヲ有シ其ノ間分毫ノ餘地ヲ容ル、コト能ハス一方ニ於テハ  
治安ヲ保持シ罪惡ヲ防制シ及檢探糾治スルノ必要ナル處分ヲシ  
テ敏捷強勁ナラシムルニ拘ラス他ノ一方ニ於テハ各人ノ自由ヲ  
尊重シテ其ノ界限ヲ峻嚴ニシ威權ノ蹂躪スル所タラシメサルハ  
立憲ノ制ニ於テ尤至重ノ要件トスル所ナリ故ニ警察及司獄官吏

法律ニ依ラスシテ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シ又ハ苛刻ノ所爲ヲ施シ  
タル者ハ其ノ罰私人ヨリ重カラシメ刑法第二百七十八條第二而  
シテ審問ノ方法ニ至テハ亦之ヲ警察官ニ委子スシテ必之ヲ司法  
官ニ訴ヘシメ辯護及公開ヲ行ヒ司法官又ハ警察官被告人ニ對シ  
罪狀ヲ供述セシムル爲ニ凌虐ヲ加フル者ハ重ヲ加ヘテ處斷ス刑  
法  
第二百八  
十條  
凡ソ處罰ノ法律ノ正條ニ依ラサル者ハ裁判ノ効ナキモ  
ノトス治罪法第四百十此レ皆務メテ周匝縝密ノ意ヲ致シテ以テ  
臣民ヲ保護スル所以ニシテ而シテ拷問及其ノ他中古ノ斷獄ハ歷  
史上既往ノ事蹟トシテ復現時ニ再生スルコトヲ得セシメス本條  
更ニ之ヲ確保シ以テ人身ノ自由ヲシテ安固ノ塗轍ニ入ラシメタ  
リ

## 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁

## 判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

本條亦各人ノ權利ヲ保護スル爲ノ要件タリ法律ニ依リ構成設置スル所ノ裁判官ハ威權ノ牽制ヲ受ケスシテ兩造ノ間ニ衡平ヲ持シ臣民ハ其ノ孤弱貧賤ニ拘ラス勢家權門ト曲直ヲ訟廷ニ爭ヒ檢斷ノ官吏ニ對シ情狀ヲ辯護スルコトヲ得ヘシ故ニ憲法ハ法律ニ定メタル正當ナル裁判官ノ外ニ特ニ臨時ノ裁判所又ハ委員ヲ設ケテ以テ裁判ノ權限ヲ侵犯シ各人ノ爲ニ其ノ權利ヲ奪フコトヲ許サス而シテ各人ハ獨立ノ裁判所ニ倚賴シテ以テ司直ノ父トスルコトヲ得ヘシ

## 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク

外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラ  
ル、コトナシ



本條ハ住所ノ安全ヲ保明ス蓋家宅ハ臣民各個安棲ノ地タリ故ニ私人ニシテ家主ノ承諾ナクシテ他人ノ住所ニ侵入スルコトヲ得サルノミナラス警察司法及收税ノ官吏民事又ハ刑事又ハ行政ノ處分ヲ問ハス凡テ法律ニ指定シタル場合ニ非スシテ及法律ノ規程ニ依ラスシテ臣民ノ家宅ニ侵入シ又ハ之ヲ搜索スルコトアレハ總テ憲法ノ見テ以テ不法ノ所爲ト做ス所ニシテ刑法ヲ以テ論セラル、コトヲ免レサルヘキナリ

刑法第百七十一條第百七十二條。

## 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク

外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

信書ノ秘密ハ近世文明ノ惠賜ノ一タリ本條ハ刑事ノ檢探又ハ戰時及事變及其ノ他法律ノ正條ヲ以テ指定シタル必要ノ場合ノ外信書ヲ開披シ又ハ破毀シテ以テ其ノ秘密ヲ侵スヲ許サ、ルコト

ヲ保明ス

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナ

シ公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

本條ハ所有權ノ安全ヲ保明ス所有權ハ國家公權ノ下ニ存立スル者ナリ故ニ所有權ハ國權ニ服屬シ法律ノ制限ヲ受ケサルヘカラス所有權ハ固ヨリ不可侵ノ權ニシテ而シテ無限ノ權ニ非サルナリ故ニ城壘ノ周圍線一定ノ距離ニ於テ或ル建築ヲ禁スルハ賠償ヲ要セス鑛物ハ鑛法ノ管理ニ屬シ山林ハ山林經濟ノ標準ニ依リ規定シタル條則ニ由ラシメ鐵道線ヨリ一定ノ距離ニ於テ樹ヲ植ルコトヲ禁シ墓域ヨリ一定ノ距離ニ於テ井ヲ鑿ルコトヲ禁スルカ如キノ類此レ皆所有權ニ制限アルノ證徴ニシテ而シテ各個人ノ所有ハ各個ノ身體ト同ク國權ニ對シ服屬ノ義務ヲ負フ者ナル

コトヲ認知スルニ足ル者ナリ蓋所有權ハ私法上ノ權利ニシテ全  
國統治ノ最高權ノ專ラ公法ニ屬スル者ト牴觸スル所アルニ非サ  
ルナリハ歐洲ニ於テ和蘭ノ<sup>プロ</sup>シユス氏其ノ萬國公法ニ於テ君主  
國法學者ハ其ノ意ヲ取リ而シテ國土主權  
ノ義ヲ以テ最高所有權ノ名ニ換ヘタリ

上古臣民私地ヲ獻シ罪アリテ領地ヲ沒官セラレ私地ヲ賣リ價ヲ  
索ムルノ事史籍ニ見ユ孝徳天皇大化二年處々ノ<sup>ミヤケ</sup>屯倉及田莊<sup>タト</sup>ヲ廢  
シ以テ兼併ノ害ヲ除キ而シテ隋唐ノ制ニ倣ヒ班田ノ制ヲ行ヒタ  
リシモ其ノ後所領莊園ノ弊仍盛ニ行ハレ從テ封建ノ勢ヲ成シ徳  
川氏ノ時ニ至テ農民ハ概子領主ノ佃戶タルニ過キサリシ維新ノ  
初元年十二月大令ヲ發シテ村々ノ地面ハ總テ百姓ノ持地タルヘ  
キコトヲ定メタリ四年ニ各藩版籍ヲ奉還シテ私領ノ遺物始メテ  
跡ヲ絶チタリ五年二月地所永代賣買ノ禁ヲ解キ又地券ヲ發行シ



六年三月地所名稱ノ達ヲ發シ公有地私有地ノ稱ヲ設ケ七年ニ私有地ヲ改メテ民有地トシ八年ニ地券ニ所有ノ名稱ヲ記載シタリ

地券雛形ニ日本帝國ノ土地ヲ有スル者ハ必此券狀ヲ有スヘシ此レ皆歐洲ニ在テ或ハ兵革ヲ用井テ領主ノ專權ヲ廢棄シ或ハ巨大ノ金額ヲ用井テ以テ佃戶ノ爲ニ權利ヲ償却シタル者ニシテ而シテ我カ國ニ於テハ各藩ノ推讓ニ依テ容易ニ一般ノ統治ニ歸シ以テ之ヲ小民ニ惠賜スルコトヲ得タリ此レ實ニ史籍アリテ以來各國ニ其ノ例ヲ見サル所ニシテ

中興新政ノ紀念タル者ナリ

公共利益ノ爲ニ必要ナルトキハ各個人民ノ意嚮ニ反シテ其ノ私產ヲ收用シ以テ需要ニ應セシム此レ即チ全國統治ノ最高主權ニ根據スル者ニシテ而シテ其ノ條則ノ制定ハ之ヲ法律ニ屬シタリ

蓋公益收用處分ノ要件ハ其ノ私產ニ對シ相當ノ補償ヲ付スルニ

在リ而シテ必法律ヲ以テ制定スルヲ要シ命令ノ範圍ノ外ニ在ル  
ハ又憲法ノ證明スル所ナリ

## 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タ

ルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

中古西歐宗教ノ盛ナル之ヲ内外ノ政事ニ混用シ以テ流血ノ禍ヲ  
致シ而シテ東方諸國ハ又嚴法峻刑ヲ以テ之ヲ防禁セムト試ミタ  
リシニ四百年來信教自由ノ說始メテ萌芽ヲ發シ以テ佛國ノ革命  
北米ノ獨立ニ至リ公然ノ宣告ヲ得漸次ニ各國ノ是認スル所トナ  
リ現在各國政府ハ或ハ其ノ國教ヲ存シ或ハ社會ノ組織又ハ教育  
ニ於テ仍一派ノ宗教ニ偏袒スルニ拘ラス法律上一般ニ各人ニ對  
シ信教ノ自由ヲ予ヘサルハアラス而シテ異宗ノ人ヲ戮辱シ或ハ  
公權私權ノ享受ニ向テ差別ヲ設クルノ陋習ハ既ニ史乘過去ノ事

トシテ仍猶逸各邦ニ於テハ千八百四十八年マテ復其ノ跡ヲ留メサルニ至レリ此レ乃信教ノ自由ハ之ヲ近世文明ノ一大美果トシテ看ルコトヲ得ヘク而シテ人類ノ尤至貴至重ナル本心ノ自由ト正理ノ伸長ハ數百年間沈淪茫昧ノ境界ヲ經過シテ纔ニ光輝ヲ發揚スルノ今日ニ達シタリ蓋本心ノ自由ハ人ノ内部ニ存スル者ニシテ固ヨリ國法ノ干涉スル區域ノ外ニ在リ而シテ國教ヲ以テ偏信ヲ強フルハ尤人知自然ノ發達ト學術競進ノ運歩ヲ障害スル者ニシテ何レノ國モ政治上ノ威權ヲ用非テ以テ教門無形ノ信依ヲ制壓セムトスルノ權利ト機能トヲ有セサルヘシ本條ハ實ニ維新以來取ル所ノ針路ニ從ヒ各人無形ノ權利ニ向テ濶大ノ進路ヲ予ヘタルナリ

但シ信仰歸依ハ專ラ内部ノ心識ニ屬スト雖其ノ更ニ外部ニ向ヒ



テ禮拜儀式布教演說及結社集會ヲ爲スニ至テハ固ヨリ法律又ハ  
警察上安寧秩序ヲ維持スル爲ノ一般ノ制限ニ遵ハサルコトヲ得  
ス而シテ何等ノ宗教モ神明ニ奉事スル爲ニ法憲ノ外ニ立チ國家  
ニ對スル臣民ノ義務ヲ逃ル、ノ權利ヲ有セス故ニ内部ニ於ケル  
信教ノ自由ハ完全ニシテ一ノ制限ヲ受ケス而シテ外部ニ於ケル  
禮拜布教ノ自由ハ法律規則ニ對シ必要ナル制限ヲ受ケサルヘカ  
ラス及臣民一般ノ義務ニ服從セサルヘカラス此レ憲法ノ裁定ス  
ル所ニシテ政教互相關係スル所ノ界域ナリ

## 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作 印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

言論著作印行集會結社ハ皆政治及社會ノ上ニ勢力ヲ行フ者ニシ  
テ而シテ立憲ノ國ハ其ノ變シテ罪惡ヲ成シ又ハ治安ヲ妨害スル

者ヲ除ク外總テ其ノ自由ヲ予ヘテ以テ思想ノ交通ヲ發達セシメ且以テ人文進化ノ爲ニ有益ナル資料タラシメサルハナシ但シ他ノ一方ニ於テハ此レ等ノ所爲ハ容易ニ濫用スヘキ銳利ナル器械タルカ故ニ此レニ由テ他人ノ榮譽權利ヲ傷害シ治安ヲ妨ケ罪惡ヲ教唆スルニ至テハ法律ニ依リ之ヲ處罰シ又ハ法律ヲ以テ委任スル所ノ警察處分ニ依リ之ヲ防制セサルコトヲ得サルハ是レ亦公共ノ秩序ヲ保持スルノ必要ニ出ル者ナリ但シ此ノ制限ハ必法律ニ由リ而シテ命令ノ區域ノ外ニ在リ

### 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

請願ノ權ハ至尊仁愛ノ至意ニ由リ言路ヲ開キ民情ヲ通スル所以ナリ孝徳天皇ノ時ニ鐘ヲ懸ケ匱ヲ設ケ諫言憂訴ノ道ヲ開キタマ

ヒ中古以後歷代ノ天皇朝殿ニ於テ百姓ノ申文ヲ讀マセ大臣納言ノ輔佐ニ依リ親ク之ヲ聽斷シタマヘリ睦職天皇以後此ノ事廢レタリ○愚管抄之ヲ史乘ニ考フルニ古昔明良ノ君主ハ皆言路ヲ洞通シ冤屈ヲ伸疏スルコトヲ力メサルハアラス蓋議會未タ設ケス裁判聽訟ノ法未タ備ハラサルノ時ニ當テ民言ヲ容納シ民情ヲ疏通スルハ獨君主仁慈ノ懿德タルノミナラス又政事上衆思ヲ集メ鴻益ヲ廣ムルノ必要ニ出ル者ナリ今ハ諸般ノ機關既ニ整備ニ就キ公議ノ府亦一定ノ所アリ而シテ猶臣民請願ノ權ヲ存シ匹夫匹婦疾苦ノ訴ト父老獻芹ノ微衷トヲシテ九重ノ上ニ洞達シ阻障スル所ナキヲ得セシム此レ憲法ノ民權ヲ貴重シ民生ヲ愛護シ一ノ遺漏ナキヲ以テ終局ノ目的ト爲スニ由ル而シテ政事上ノ德義是ニ至テ至厚ナリト謂フコトヲ得ヘシ



但シ請願者ハ正當ノ敬禮ヲ守ルヘク憲法上ノ權利ヲ濫用シテ以テ至尊ヲ干瀆シ又ハ他人ノ隱私ヲ摘發シテ徒ニ讒誣ヲ長スルカ如キハ德義上ノ尤モ戒慎スヘキ所ニシテ而シテ法律命令又ハ議院規則ニ依リ規程ヲ設クルハ又已ムヲ得サルニ出ル者ナリ

請願ノ權ハ君主ニ進ムルニ始マリ而シテ推廣シテ議院及官衙ニ呈出スルニ及フ其ノ各個人ノ利益ニ係ルト又ハ公益ニ係ルトヲ問ハス法律上彼此ノ間ニ互ニ制限ヲ設ケサルナリ

### 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事

變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

本章掲ケル所ノ條規ハ憲法ニ於テ臣民ノ權利ヲ保明スル者ナリ蓋立憲ノ主義ハ獨臣民ノミ法律ニ服從スルニ非ス又臣民ノ上ニ勢力ヲ有スル國權ノ運用ヲシテ法律ノ檢束ヲ受ケシムルニ在リ

唯然リ故ニ臣民倚テ以テ其ノ權利財産ノ安全ヲ享有シテ專横不  
法ノ疑懼ヲ免ルヽコトヲ得ヘシ此レヲ本章ノ大義トス但シ憲法  
ハ猶非常ノ變局ノ爲ニ非常ノ例外ヲ掲クルコトヲ怠ラス蓋國家  
ノ最大目的ハ其ノ存立ヲ保持スルニ在リ練熟ナル船長ハ覆没ヲ  
避ケ航客ノ生命ヲ救フ爲ニ必要ナルトキハ其ノ積荷ヲ海中ニ投  
棄セサルヘカラス良將ハ全軍ノ敗ヲ避クル爲ニ已ムヲ得サルノ  
時機ニ當リテ其ノ一部曲ヲ棄テサルコトヲ得ス國權ハ危難ノ時  
機ニ際シ國家及國民ヲ救濟シテ其ノ存立ヲ保全スル爲ニ唯一ノ  
必要方法アリト認ムルトキハ斷シテ法律及臣民權利ノ一部ヲ犧  
牲ニシテ以テ其ノ最大目的ヲ達セサルヘカラス此レ乃元首ノ權  
利ナルノミナラス亦其ノ最大義務ヨリ國家ニシテ若此ノ非常權  
ナカリセハ國權ハ非常ノ時機ニ際リテ其ノ職ヲ盡スニ由ナカラ

各國ノ憲法ニ或ハ此ノ義ヲ明示シ或ハ明示セサルトニ拘ラス其實際ニ於テ存立ヲ保全スル國權ノ權力ヲ認許セサルハアラス何トナレハ各國總テ皆戰時ノ爲ニ必要ナル處分ヲ施行スルハ認フヘカラサルノ事實ナレハナリ但シ常變ノ際間ニ髮ヲ容ル、コト能ハス夫ノ時機ノ必要ニ非スシテ妄ニ非常權ニ推托シ以テ臣民ノ權利ヲ蹂躪スルカ如キハ各國憲法ノ決シテ許サ、ル所ナリ蓋正條ニ非常權ヲ掲ケ及其ノ要件ヲ示ス者ハ非常ノ時機ノ爲ニ憲法上ノ空缺ヲ遺スコトヲ肯ムセサルナリ或ル國ニ於テ之ヲ不言ニ附スル者ハ臨機ノ處分ヲ以テ憲法區域ノ外ニ置キ議院ノ判決ニ任セ以テ其ノ違法ノ責ヲ解カムトスルナリ而シテ近世ノ國法學ヲ論スル者甲ノ方法ノ尤完全ナルヲ贊稱ス



第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

軍人ハ軍旗ノ下ニ在テ軍法軍令ヲ恪守シ專ラ服從ヲ以テ第一義務トス故ニ本章ニ掲クル權利ノ條規ニシテ軍法軍令ト相抵觸スル者ハ軍人ニ通行セス即チ現役軍人ハ集會結社シテ軍制又ハ政事ヲ論スルコトヲ得ス政事上ノ言論著述印行及請願ノ自由ヲ有セサルノ類是ナリ

### 第三章 帝國議會

第三章ハ帝國議會ノ成立及權利ノ大綱ヲ舉ク蓋議會ハ立法ニ參與スル者ニシテ主權ヲ分ツ者ニ非ス法ヲ議スルノ權アリテ法ヲ定ムルノ權ナシ而シテ議會ノ參贊ハ憲法ノ正條ニ於テ附與スル所

ノ範圍ニ止マリ無限ノ權アルニ非サルナリ  
議會ノ立法ニ參スルハ立憲ノ政ニ於ケル要素ノ機關タル所以ナ  
リ而シテ議會ハ獨立立法ニ參スルノミナラス併セテ行政ヲ監視ス  
ルノ任ヲ間接ニ負擔スル者ナリ故ニ我カ憲法及議院法ハ議會ノ  
爲ニ左ノ權利ヲ認メタリ一ニ曰、請願ヲ受クルノ權、二ニ曰、上奏及  
建議ノ權、三ニ曰、議員政府ニ質問シ辯明ヲ求ムルノ權、四ニ曰、財政  
ヲ監督スルノ權是ナリ若議會ニシテ果シテ老熟着實ノ氣象ニ基  
キ平和靜穩ノ手段ヲ用非テ此ノ四條ノ權ヲ適當ニ使用スルコト  
ヲ愆ラサルトキハ以テ權力ノ偏重ヲ制シ立法行政ノ際調和平衡  
シテ善良ナル臣民ノ代議タルニ負カサルヘキナリ

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ  
成立ス

貴族院ハ貴紳ヲ集メ衆議院ハ庶民ニ選フ兩院合同シテ一ノ帝國  
議會ヲ成立シ以テ全國ノ公議ヲ代表ス故ニ兩院ハ或ル特例ヲ除  
ク外平等ノ權力ヲ有チ一院獨立立法ノ事ヲ參贊スルコト能ハス以  
テ謀議周匝ニシテ輿論ノ公平ヲ得ルヲ期セムトス

二院ノ制ハ歐洲各國ノ既ニ久シク因襲スル所ニシテ其ノ効績ヲ  
史乘ニ徵驗シ而シテ此ニ反スルノ一院制ヲ取レル者ハ皆其ノ流  
禍ヲ免レサルコトヲ證明シタリ

佛國千七百九十一年及千八百四十八年西班牙千八百十二年憲法

近來二院制ノ祖國ニ於テ論者却テ其ノ社會發達ノ淹滯障礙タル  
ノ說ヲ爲ス者アリ抑二院ノ利ヲ主持スル者既ニ熟套ノ論アリテ  
今茲ニ引擧スルヲ必要トセサルヘシ但シ貴族院ノ設ハ以テ王室  
ノ屏翰ヲ爲シ保守ノ分子ヲ貯存スルニ止マルニ非ス蓋立國ノ機  
關ニ於テ固ヨリ其ノ必要ヲ見ル者ナリ何トナレハ凡ソ高尙ナル



有機物ノ組織ハ獨各種ノ元素ヲ包合シテ以テ成體ヲ爲スノミナ  
ラス又必各種ノ機器ニ倚テ以テ中心ヲ輔翼セサルハアラス兩目  
各其ノ位ヲ殊ニセサレハ以テ視力ノ角點ヲ得ヘカラス兩耳各其  
ノ方ヲ異ニセサレハ以テ聽官ノ偏聾ヲ免ルヘカラス故ニ元首ハ  
一ナラサルヘカラス而シテ衆庶ノ意思ヲ集ムルノ機關ハ兩個ノ  
一ヲ缺クヘカラサルコト宛モ兩輪ノ其ノ一ヲ失フヘカラサルカ  
如シ夫レ代議ノ制ハ以テ公議ノ結果ヲ收メムトスルナリ而シテ  
勢力ヲ一院ニ集メ一時感情ノ反射ト一方ノ偏向トニ任シテ互相  
牽制其ノ平衡ヲ持スル者ナカラシメハ孰レカ其ノ傾流奔注ノ勢  
容易ニ範防ヲ踰越シ一變シテ多數壓制トナリ再變シテ橫議亂政  
トナラサルコトヲ保證スル者アラム乎此レ其ノ弊ハ却テ代議ノ  
制ナキノ日ヨリ猶甚キモノアラムトス故ニ代議ノ制設ケサレハ

已ム之ヲ設ケテ二院ナラサレハ必偏重ヲ招クコトヲ免レス此レ乃物理ノ自然ニ原由スル者ニシテ一時ノ情況ヲ以テ之ヲ掩蔽スヘキニ非サルナリ要スルニ二院ノ制ノ代議法ニ於ケルハ之ヲ學理ニ照シ之ヲ事實ニ徴シテ其ノ不易ノ機關タルコトヲ結論スルコトヲ得ヘキナリ彼ノ或國ニ於ケル貴族院ノ懶庸ニシテ議事延滯ノ弊アルヲ論スルカ如キハ此レ一時ノ短ヲ摘發スルニ過キス而シテ國家ノ長計ニ對シテハ其ノ言ノ價直アルヲ見サルナリ

### 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

貴族院議員ハ其ノ或ハ世襲タリ或ハ選舉又ハ勅任タルニ拘ラス均ク上流ノ社會ヲ代表スル者タリ貴族院ニシテ其ノ職ヲ得ルトキハ政權ノ平衡ヲ保チ政黨ノ偏張ヲ制シ橫議ノ傾勢ヲ撐ヘ憲法

ノ鞏固ヲ扶ケ上下調和ノ機關トナリ國福民慶ヲ永久ニ維持スルニ於テ其ノ効果ヲ收ムルコト多キニ居ラムトス蓋貴族院ハ以テ貴胄ヲシテ立法ノ議ニ參預セシムルノミニ非ス又以テ國ノ勳勞學識及富豪ノ士ヲ集メテ國民慎重練熟耐久ノ氣風ヲ代表セシメ抱合親和シテ俱ニ上流ノ一團ヲ成シ其ノ効用ヲ全クセシムル所以ナリ其ノ構成制規ハ貴族院令ニ具ハルヲ以テ憲法ニ之ヲ列舉セサルナリ

### 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選

セラレタル議員ヲ以テ組織ス

衆議院ノ議員ハ其ノ資格ト其ノ任期トヲ定メテ廣ク全國人民ノ公選スル所ヲ取ラムトス本條議員選舉ノ制規ヲ以テ之ヲ別法ニ讓ル者ハ蓋選舉ノ方法ハ時宜ノ必要ヲ將來ニ見ルニ從ヒ之ヲ補



修スルノ便ヲ取ルコトアラムトス故ニ憲法ハ其ノ細節ニ涉ルコトヲ欲セサルナリ

衆議院ノ議員ハ總テ皆全國ノ衆民ヲ代表スル者タリ而シテ衆議院ノ選舉ニ選舉區ヲ設クルハ代議士ノ選舉ヲシテ全國ニ普通ナラシメ及選舉ノ方法ニ便リスルニ外ナラス故ニ代議士ハ各個ノ良心ニ從ヒ自由ニ發言スル者ニシテ其ノ所屬選舉區ノ人民ノ爲ニ一地方ノ委任使トナリ委囑ヲ代行スル者ニ非サルナリ之ヲ歐洲ノ史乘ニ參考スルニ往昔ノ議會ハ其ノ議員タル者往々委囑ノ主旨ニ依リ一部ノ利益ヲ主張シテ全局ヲ達觀スルノ公義ヲ忘レ從テ多數ヲ以テ議決トスルノ代議ノ大則ヲ拋棄スルニ至ル者往々ニシテコレアリ此レ代議士ノ本分ヲ知ラサルノ過ニ由ルナリ

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ

得ス

兩院ハ一ノ議會ニシテ分チテ兩局トシ其ノ成素ヲ殊ニシ平衡相持スルノ位置ニ居ル故ニ一人ニシテ同時ニ兩院ノ議員ヲ兼ヌルハ兩院分設ノ制ノ許サ、ル所ナリ

### 第三十七條

凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス法律ハ國家主權ヨリ出ル軌範ニシテ而シテ必議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルハ之ヲ立憲ノ大則トス故ニ議會ノ議ヲ經サル者ハ之ヲ法律トスルコトヲ得サルナリ一院ノ可トスル所ニシテ他ノ一院ノ否トスル所ハ亦之ヲ法律トスルコトヲ得サルナリ

(附記)

何等ノ事物ハ法律ヲ以テ定ムルヲ要スル乎ノ問題ニ至テハ蓋一ノ例言ヲ以テ之ヲ概括シ難シ普國ノ普通法ヲ公布セル勅令ニ本法ハ別段ノ法律ニ依テ定メサル國民ノ權利義務ヲ

判明スヘキ條規ヲ包括スト云ヘリ又巴威倫千八百十八年五月二十六日憲法ノ第七章第二條ニ人身ノ自由又ハ國民ノ財產ニ關ル普通ノ法ヲ發シ或ハ現行法ヲ變更シ解釋シ廢止スルニハ國會ノ協同ヲ要スト云ヘリ然ルニ學者多クハ法律ノ區域ハ權利義務若ハ自由財產ニ止マルヘカラサルコトヲ駁シ且事物ヲ以テ法律ト命令トノ區域ヲ分割セムトスルハ憲法上及學問上ノ試驗ニ於テ一モ其ノ結果ヲ得サルコトヲ論シタリ蓋法律及命令ノ區域ハ專ラ各國政治發達ノ程度ニ從フ而シテ唯憲法史以テ之ヲ論斷スヘキノミ但シ憲法ノ明文ニ依リ特ニ法律ヲ要スル者ハ之ヲ第一ノ限界トシ既ニ法律ヲ以テ制定シタル者ハ法律ニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得サルハ之ヲ第二ノ限界トス此レ乃立憲各國ノ同キ所ナリ



## 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決

シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

政府ニ於テ法律ヲ起草シ天皇ノ命ニ由リ之ヲ議案トナシ兩議院ニ付スルトキハ兩議院ハ之ヲ可トシ之ヲ否トシ又ハ之ヲ修正スルコトヲ得若兩議院ニ於テ或ル法律ヲ發行スルヲ必要ナリトスルトキハ各其ノ案ヲ提出スルコトヲ得而シテ甲議院之ヲ提出シ乙議院之ニ同意シ又ハ之ヲ修正シテ可決シタル後天皇ノ裁可アルトキハ亦法律トナルコト政府ノ起案ニ異ナルコトナシ

至尊ノ議會ニ於ケルハ召集開閉ノ勅命及法律裁可ノ外會期中總テ國務大臣ヲシテ議案及其ノ他ノ往復ニ當ラシム故ニ之ヲ政府ノ提出ト謂フナリ

## 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ

同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

再議ノ提出ハ議院ノ權利ヲ毀損スルノミナラス又會期遷延シテ一事ニ拘滯スルノ弊アラムトス故ニ本條ニ之ヲ禁止セリ既ニ否決ヲ經タル同一ノ議案ヲ以テ其ノ名稱文字ヲ變更シ再ヒ之ヲ提出シ以テ本條ノ規定ヲ避ルハ亦憲法ノ許サ、ル所ナリ君主ノ裁可ヲ得サルノ法案ハ同一會期ノ中ニ議院ヨリ提出スルコトヲ得サルハ此レ固ヨリ元首ノ大權ニ對スル事理ノ當然ニシテ更ニ言明ヲ假ラス但シ仍建議ノ條ニ於テ其ノ再ヒ建議スルコトヲ禁スルコトヲ掲クルハ提出議案ノ裁可ノ有無ハ至尊ノ勅命ニ由リ而シテ建議採納ノ有無ハ政府ノ取捨ニ存ス其ノ間固ヨリ輕重ノ差アリ從テ豫メ疑義ヲ判明スルノ要用ヲ見レハナリ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其

ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

本條ハ議院ニ建議ノ權アルコトヲ掲クルナリ上條既ニ兩議院ニ各法律案ヲ提出スルノ權ヲ予ヘタリ而シテ本條ニ又法律ニ付意見ヲ建議スルコトヲ得ト謂ヘルハ何ゾ乎議院自ラ法律ヲ起案シテ之ヲ提出スルト或ハ某ノ新法ノ制定スヘク某ノ舊法ノ改正又ハ廢止スヘキコトヲ決議シ成案ヲ具ヘス單ニ其ノ意見ヲ以テ政府ニ啓陳シ政府ノ採ル所トナルトキハ其ノ起草制定スルニ任スルト兩様ノ方法ニ就テ議院ヲシテ其ノ一ヲ擇ハシムルナリ蓋之ヲ歐洲ニ參考スルニ議院自ラ議案提出ノ權ヲ有スルハ各國ノ同キ所ナリ(瑞西ヲ除ク外)但シ議院自ラ多數ニ倚賴シテ法律ノ條項



ヲ制定スルハ往々議事遷延ト成條ノ疎漏ニシテ首尾完整ナラサルトノ弊ヲ免レス寧政府ノ委員ノ練熟ナルニ倚任スルノ愈レルニ若カス此レ各國學者ノ之ヲ事實ニ徵驗シテ其ノ得失ヲ論スル所ナリ

議會ハ立法ノ事ニ參預スルノミナラス併セテ間接ニ行政ヲ監視スルノ任ヲ負フ者ナリ故ニ兩議院ハ又立法ノ外ノ事件ニ付意見ヲ以テ政府ニ建議シ利弊得失ヲ論白スルコトヲ得

但シ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ拘ラス議院ノ意見ニシテ政府ノ採納ヲ得サル者ハ同一會期ノ間再ヒ建議スルコトヲ得サラシムルハ蓋紛議強迫ニ涉ルノ塗ヲ防ク所以ナリ

#### 第四十一條 帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

議會ヲ召集スルハ專ラ天皇ノ大權タリ然ルニ本條ニ毎年召集ス

ルコトヲ定ムルハ憲法ニ於テ議會ノ存立ヲ保障スル所以ナリ但  
シ第七十條ニ掲ケタル場合ノ如キハ非常ノ例外タリ

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要  
アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトア  
ルヘシ

三個月ヲ以テ會期トスル者ハ議事遷延シ窮期ナキコトアルヲ防  
クナリ其ノ已ムヲ得サルノ必要アルニ當リ會期ヲ延長シ閉會ヲ  
延期スルハ亦勅命ニ由ル議會自ラ之ヲ行フコトヲ得サルナリ  
議會閉會シタルトキハ會期ノ事務ハ終ヲ告ル者トシ特別ノ規定  
アル者ヲ除ク外議事ノ已ニ議決シタルト未タ議決セサルトヲ問  
ハス次回ノ會期ニ繼續スルコトナシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ

外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

議會ハ一年ニ一會ヲ開ク之ヲ常會トス憲法ニ常會ノ時期ヲ掲ケ  
スト雖蓋常會ハ以テ毎年ノ豫算ヲ議スルノ便ヲ取ル故ニ冬季ニ  
開會スルヲ例トス而シテ常會ノ外臨時緊急ノ必要アルトキハ特  
ニ勅命ヲ發シテ臨時會ヲ召集ス

臨時會ノ會期ハ憲法ニ之ヲ限定セス而シテ臨時召集スル所ノ勅  
命ノ定ムル所ニ從フ亦其ノ必要如何ニ依ラシムルナリ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會

ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ  
停會セラレヘシ



貴族院ト衆議院ハ兩局ニシテ一揆ノ議會タリ故ニ一議院ノ議ヲ經スシテ他ノ議院ノ成議ヲ以テ法律ト爲スヘカラス又一議院ノ會期ノ外ニ他ノ議院ノ會議ヲ有効ナラシムヘカラス本條ニ兩院ハ必同時ニ開閉始終スルヲ定ムルハ此ノ義ニ依レルナリ

貴族院ノ一部ハ世襲議員ヲ以テ組織ス故ニ貴族院ハ停會スヘクシテ解散スヘカラス衆議院ノ解散ヲ命セラレタルニ當テハ貴族院ハ同時ニ停會ヲ命セラル、ニ止マルナリ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

本條ハ議會ノ爲ニ永久ノ保障ヲ與フルナリ蓋解散ハ將ニ舊議員ヲ解散シテ新議員ヲ召集セムトスル者ナリ而シテ憲法若議院解

散ノ後新ニ召集スルノ時期ヲ一定セサルトキハ議會ノ存立ハ政府ノ隨意ニ廢止スル所ニ任スルニ至ラムトス

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席議員三分ノ一ニ充タサルトキハ以テ會議ヲ成立スルニ足ラス故ニ議事ヲ開クコトヲ得ス及議決ヲ爲スコトヲ得サルナリ  
總議員トハ選舉法ニ定メタル議員ノ總數ヲ謂フ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得サルトキハ三分ノ一以上召集ニ應スルニ非サレハ議院ノ成立ヲ告グルコト能ハサルコト亦知ルヘキナリ

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否

同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

過半數ヲ以テ決ヲ舉ルハ議事ノ常則タリ本條過半數トハ出席議員ニ就テ之ヲ謂ヘルナリ兩議平分シテ各同數ヲ得ルノ場合ニ當テ議長ノ見ル所ニ依リ決ヲ爲スハ事理宜ク然ルヘキナリ但シ第七十三條ニ於ケル憲法改正ノ議事ハ例外トス又議院ニ於テ議長及其他ノ委員ヲ選舉スルニ付特ニ定ムルノ多數及委員會ノ規程ハ各其ノ規則ニ依ルヘクシテ本條ニ干渉ナキナリ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

議院ハ衆庶ヲ代表ス故ニ討論可否之ヲ衆目ノ前ニ公ニス但シ議事ノ秘密ヲ要スル者外交事件人事及職員委員ノ選舉又ハ或ル財政兵政或ル治安ニ係ル行政法ノ如キハ其ノ變例トシ政府ノ要求



ニ依リ又ハ各院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲シ公開ヲ閉ツルコトヲ得

#### 第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

上奏ハ文書ヲ上呈シテ天皇ニ奏聞スルヲ謂フ或ハ勅語ニ奉對シ或ハ慶賀吊傷ノ表辭ヲ上リ或ハ意見ヲ建白シ請願ヲ陳疏スルノ類皆其ノ中ニ在リ而シテ或ハ文書ヲ上呈スルニ止マリ或ハ總代ヲ以テ覲謁ヲ請ヒ之ヲ上呈スルモ皆相當ノ敬禮ヲ用ウヘク逼迫強抗ニシテ尊嚴ヲ干犯スルコトアルヲ得サルヘキナリ

#### 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

臣民ハ至尊ニ請願シ又ハ行政官衙ニ請願シ議院ニ請願スルコト總テ其ノ意ニ隨フコトヲ得其ノ議院ニ在テハ各人ノ請願ヲ受ケ

テ之ヲ審查シ或ハ單ニ之ヲ政府ニ紹介シ或ハ之ニ意見書ヲ附シ  
 テ政府ノ報告ヲ求ムルコトヲ得但シ議院ハ必シモ請願ヲ議定ス  
 ルノ義務アルコトナク政府ハ必シモ請願ヲ許可スルノ義務アル  
 コトナシ若夫請願ノ立法ニ係ル者ハ請願ヲ以テ直ニ提出法律案  
 ノ動議ト爲スヘカラスト雖議員ハ其ノ請願ノ主旨ニ依リ通常動  
 議ノ方法ニ從フコトヲ得ヘシ

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモ  
 ノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコト  
 ヲ得

内部ノ整理ニ必要ナル諸規則トハ議長ノ推選議長及事務局ノ職  
 務各部ノ分設委員ノ推選委員ノ事務議事規則議事記錄請願取扱  
 規則議員請假規則紀律及議院會計ノ類ヲ謂フ而シテ憲法及議院

法ノ範圍内ニ於テ議院ノ自ラ之ヲ制定スルニ任スルナリ

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル  
意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ  
議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方  
法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分  
セララルヘシ

本條ハ議院ノ爲ニ言論ノ自由ヲ認ム蓋議院ノ内部ハ議院ノ自治  
ニ屬ス故ニ言論ノ規矩ヲ越エ德義ヲ紊リ又ハ人ノ私事ヲ譏毀ス  
ルカ如キハ議院ノ紀律ニ據リ議院自ラ之ヲ制止シ及懲戒スヘキ  
所ニシテ而シテ司法官ハ之ニ干涉セサルヘキナリ議決ハ以テ法  
律ノ成案ヲ爲サムトス而シテ議員ノ討論ハ異同相摩シテ其ノ一  
ニ歸結スルノ資料ヲ爲ス者ナリ故ニ議院ノ議ハ以テ刑事及民事



ノ責ヲ問フヘカラサルナリ此レ一ハ議院ノ權利ヲ尊重シ二ハ議員ノ言論ヲシテ十分ニ價量アラシメムトナリ但シ議員自ラ議院ノ言論ヲ公布シ其ノ自由ヲ冒用シテ之ヲ外部ニ普及スルニ至テハ動議ト駁議トヲ問ハス總テ法律ノ責問ヲ免ルコトヲ得ス

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

兩議院ハ立法ノ大事ヲ參贊ス故ニ會期ノ間議員ニ予フルニ例外特權ヲ以テシ議員ヲシテ不羈ノ體面ヲ有テ其ノ重要ノ職務ヲ盡スコトヲ得セシメムトス若夫現行犯罪又ハ内亂外患ニ係ルノ罪ニ至テハ議院ノ特典ノ庇護スル所ニ非サルナリ會期中トハ召集ノ後閉會ノ前ヲ謂フ非現行犯及普通ノ罪犯ハ議院ニ通牒シ其ノ

許諾ヲ得テ後ニ之ヲ逮捕シ其ノ現行犯及内亂外患ニ關ル罪犯ハ先ツ逮捕シテ後ニ議院ニ通知スヘキナリ

## 第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

議會ノ議事ニ當リ議場ニ辯明スルハ大臣重任ノ在ル所ニシテ萬衆ニ對シ心胸ヲ開キ正理ヲ公議ニ訴ヘ嘉謀ヲ時論ニ求メ其ノ底蘊ヲ叩キ遺憾ナカラシム蓋此ノ如クナラサレハ以テ立憲ノ効用ヲ收ムルニ足ラサルナリ但シ出席及發言ノ權ハ政府ノ自由ニ任セ或ハ大臣自ラ討論シ又ハ辯明シ或ハ他ノ委員ヲシテ討論辯明セシメ或ハ時宜ノ許サ、ルヲ以テ討論辯明ヲ爲サ、ルコトヲ得皆其ノ意ニ隨フナリ